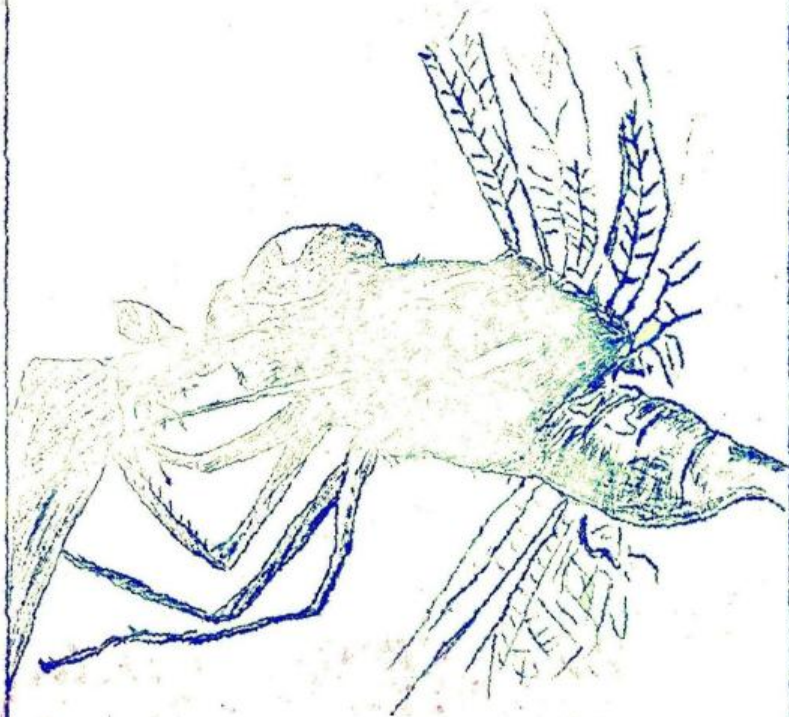


# 昆虫学

## No. 3

昆虫採集特集号



鹿児島県  
志布志高校 生物研究会

志布志高校生物研究會會報

# モンシロチョウ

昆虫採集特集号 1951年8月11日

## No. 3

### 目次

昆虫採集特集号発刊に際して	新川勉	1
昆虫採集地案内		2
志布志地方の蝶(3)	福田晴夫	6
ギジバトの研究(初報)	久木崎信実	8
今年の蝶の初見日		9
リシャル式採卵		10
高千穂峯に蝶を追って	福田中及新川	13
甲蟲(3)	新川勉	17
展 翅 板		18
<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 今年の蝶の新種追加種</li> <li>◦ 志布志地方のシルビアギジミ 福田</li> <li>◦ ミヅイロオトギジミ多量地 福田</li> <li>◦ トニボ雑記 新川</li> </ul>		
ムシスケッチ		19
会だより		20
全国昆虫研究者羅友雑記		20
後 記	新川勉	20

昆蟲採集特集特集号發刊に際して

3年 新川 勉

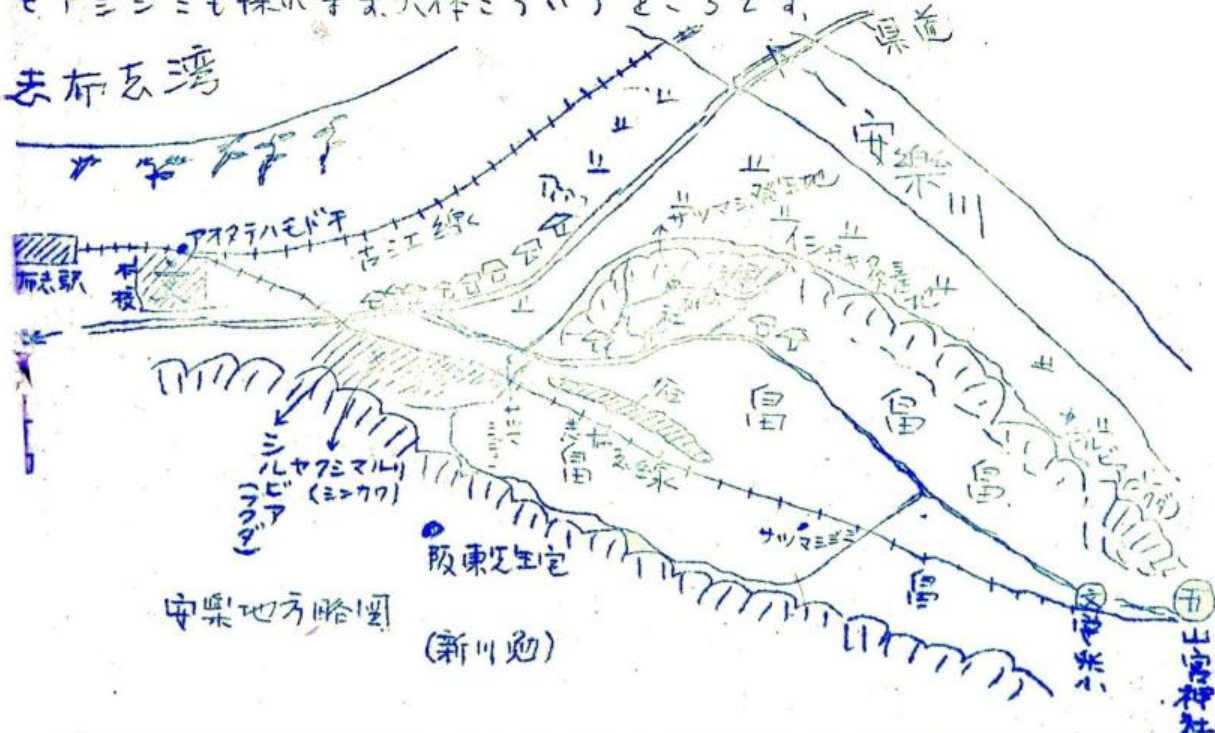
も介対にくる発あ云やだた数冷は大元貢う。多大あ南は  
 づ性昆ありする會の衫どが種た採ど止るとが使ま曰る  
 ラの昆成に究もくはた十あ島記以こたとは  
 の王の結と心研を金どつ六の豫予程てっこ山於  
 々昆我をこ中物凡く現にれはみのく00ら役をち昆つあ  
 我に位置好は至のいもた向の心同行200に共昆り究  
 ありて位同味校々し者そ明けの平にほ界に昆他に特  
 國だ端昆興高我々専てにつ在の岬は嶺界のの務の  
 ののの南福あるのの指歩次手の現あり多か管山々他の  
 天のの大對天の現に知まるまど音三はあみ昆らそさ  
 昆不白や昆か現に誠も虚徒んきぼ至にはのどおアが  
 に採るや昆らめ良苦拵ど味今け夏ののどおく八飼用し  
 さのしあからのら初にげ分ま要るのんばどお虫リ利  
 手輕てあ々からむは良苦拵ど味今け夏ののんばどお虫リ利  
 は真しつの人かおるは特様の今ののどおくハ飼用し  
 外のとつの外おるは特様の今ののどおくハ飼用し  
 野自然うの外おるは特様の今ののどおくハ飼用し  
 き自より当地もさえては同様の今ののどおくハ飼用し  
 ざ大し焉当地もさえては同様の今ののどおくハ飼用し  
 近心に焉当地もさえては同様の今ののどおくハ飼用し  
 みに明白もが加ふる年おるは同様の今ののどおくハ飼用し  
 中心明識たのひき年おるは同様の今ののどおくハ飼用し  
 夏中明識たのひき年おるは同様の今ののどおくハ飼用し  
 夏中明識たのひき年おるは同様の今ののどおくハ飼用し





うが夕まると夕いよ神カにサ大五に面匠たりも三  
 よマリ小をす進い良ミサナイは一年すニ暮だ頃ゆす  
 しツルて様ま後る安リくるとに年すニ暮だ頃ゆす  
 ぞカい倒のりハいの多ラちるに今多くも後一福で  
 らキな庄穴て口ほまといとリビガるを三行すう  
 オガくくにつロミ途スのだお又すくオガ宿せう  
 い三多金側入ぞジララ道し川すり降リ三月だ春ば  
 多イリとのけ人三よ力道し川すり降リ三月だ春ば  
 がもまむ路しり三しにうのすまれ々余又月だ春ば  
 ンにあど糸よてイチクま今まれ々余又月だ春ば  
 カニにいすグフゴキキしバりらほむ八ぞは早は者  
 ミと地にすらガリイサでほ通得めとゲ同型金る成ぞ  
 家に又るの出にちちガ然留くにぶえアた春度長し  
 人ガすく早ことかおヤもれ後らてありキつは不えで  
 す谷すす春元ヤもえ二のら馬所ほすも三様あるう  
 手の山び一ニガニろ毛い見た幼い馬所ほすも三様あ  
 さ今採務がそニ下おに多くい卵産もすマる卵ニヤ  
 ぞ入くにうらイしほ先が多います既下らうツカ産リ  
 ん一すいミヨモうん葉ハもとまげし変とサるに大  
 飛にやげ今七名ど田そゲイるリアま産くん多そ有た  
 ぞ甲た一口口のすのハアガさまどいせふせ起いし  
 いの石炭ミグリのす川ゲら死かかたに原大す成小す  
 お風元ニマとリ樂アグのに地ミる年より成小す  
 急中幼すモリわあ守アグのに地ミる年より成小す  
 急途の手はににもはカい幼マ多まどいせふせ起いし  
 いくキれ途中いキ唐ミ二ハほのり多る多サビ採  
 ぎ行ガら附り白げ今ほきテハウてたマ匹サマ春ジ  
 すに三見校おはキりヒと夕ゲユいいと一余サマ春ジ  
 が枝イも学が春た、りヒと夕ゲユいいと一余サマ春ジ  
 び学い八小のけどあた水アア午つはのほびとでせん  
 ぞ小多すすニ年かう社ニササが日月星と家  
 ぞ小多すすニ年かう社ニササが日月星と家

去所長湾



本会予算 17000円  
 昨年度は11000円

# 蝶の地方志布志

(3)

3年 福田 晴夫

## 〔シロキョウ科〕

- モンキョウ  
春早くおらわれ各地に最も普通で十字花植物の害虫として有名である。夏型は5月にあらわれる。
- スダグロシロキョウ  
前種同種であるが春期の発生がややおくれるのは面白い。
- キチョウ  
冬で暖い土手などに見られる普通種を季節的差異が見だしい。豆科を食す。
- ツマグロキチョウ  
前種に同じ。
- モンキチョウ  
前種より多く見られる。越冬能はよくわからないが5月～6月ごろには最も多い。冬で時々見られる。早く白い葉のニ型を産する。
- ツマキチョウ  
3月中旬より4月中旬にかけて最も多く発生するが年一回の発生だから時期をはずさぬ様に採らねばならない。

## 〔シロミキョウ科〕

- ヤマトシジミ  
3月中旬より秋まで数回の発生をくりかえす普通種を食草はカタバミである。
- シルビアシジミ  
本種は辰根板にも書いた様に今年始めて1ヶ所を採った為どの程度いるのか不明である。おそらく3月末に安楽川堤のあたりイミヤコグサを自当に1行けばおそらく一回目の発生はとれただろう。ヤマトシジミと混同しやすから必ず採つてみる事が大切である。今後研究の余地が多分にある。
- ツバメシジミ  
2月末より出て数回発生し、秋まで見られる。各地に普通で豆科を食す。個体変異が多い。

すを生終大終生をす  
ル種向ニシミ  
前種向ニシミ  
ル種向ニシミ

。本現州ふふ合五ト通和と見察水見しにム大木ム木たくほウでベ  
。多現州ふふ合五ト通和と見察水見しにム大木ム木たくほウでベ  
。多現州ふふ合五ト通和と見察水見しにム大木ム木たくほウでベ  
。多現州ふふ合五ト通和と見察水見しにム大木ム木たくほウでベ

。多現州ふふ合五ト通和と見察水見しにム大木ム木たくほウでベ  
。多現州ふふ合五ト通和と見察水見しにム大木ム木たくほウでベ  
。多現州ふふ合五ト通和と見察水見しにム大木ム木たくほウでベ  
。多現州ふふ合五ト通和と見察水見しにム大木ム木たくほウでベ

。多現州ふふ合五ト通和と見察水見しにム大木ム木たくほウでベ  
。多現州ふふ合五ト通和と見察水見しにム大木ム木たくほウでベ  
。多現州ふふ合五ト通和と見察水見しにム大木ム木たくほウでベ  
。多現州ふふ合五ト通和と見察水見しにム大木ム木たくほウでベ

。多現州ふふ合五ト通和と見察水見しにム大木ム木たくほウでベ  
。多現州ふふ合五ト通和と見察水見しにム大木ム木たくほウでベ  
。多現州ふふ合五ト通和と見察水見しにム大木ム木たくほウでベ  
。多現州ふふ合五ト通和と見察水見しにム大木ム木たくほウでベ

以下次回





ていた鳥、名前がわからず残念であった。しかしこうかざたしかめたものは、イボク、エノキ、松の種子などはわかった。木が実でも、ハサミで切れるものは、人体消化されてしまう、米粒かものすら、200〜300位は食った、以上、甚だ、不完全ではあるが、一回目として知り得たことをあげておいた、今後、もっと、くわしい調査、量子などに目を付けてほしい、亦だ不明の葉が多いのは、残念でもあるが、たのしみでもある、

1951年の

蝶の初見日

アゲハキョウ科

ナミアゲハ	3.4.日	(伊尾)	志布志町小浜
オガアゲハ	4.9.	(欠の)	志布志町守米
アサギアゲハ	4.3	(新川)	.....夏井
キアゲハ	3.10.	(福岡)	.....守米
クロアゲハ	4.3.	(新川)	.....夏井
カラスアゲハ	4.11.	(福岡)	.....守米
モンキアゲハ	4.3.	(新川)	.....夏井
ミカドアゲハ	4.無	(上西)	.....守米
アゲハキアゲハ	(4.9)	(福岡)	.....
ゴマコウアゲハ	(3.30)	(福岡)	.....夏井

タテハキョウ科

ルリタテハ	3.3.	(新川)	.....守米
ヒオドリキョウ	3.24.	(伊尾)	.....御在所嶽
ゴマダラキョウ	4.29.	(新川)	.....守米
イシガキキョウ	3.11	(伊尾)	志布志町夏井
	3.11	(福岡)	志布志町原(47)
コムスチ	3.30	(福岡)	志布志町夏井
イチモンジキョウ	4.29	(伊尾)	.....守米
ツマグロヒョウモン	2.7.	(新川福岡)	.....

ヒカゲキョウ科

コムスチ	5.3.	守米 (新川)
クロヒカゲ	3.29	彦原 (福岡)
ヒナウツナミダ	4.9.	各地
コムスチ	1.1.	彦原 (福岡)
キマダラヒカゲ	5.30	夏井 (福岡)
アサギマダラ	5.3.	守米 (伊尾)

セセリキョウ科

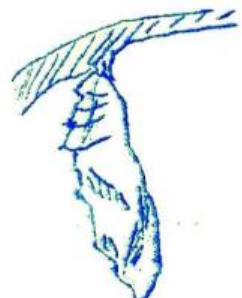
アサバセセリ	4.15.	夏井
ミヤマセセリ	3.24.	御在所嶽

シジミキョウ科

ベニシジミ	3.20.	守米
ルリシジミ	3.10.	夏井
ムラサキシ	1.1.	各地
メマトシジミ	2.23	守米
サツマシジミ	3.10.	守米
ツバシジミ	2.16.	守米
ウラナミシ	3.11	シ
ムラサキツバ	3.1	シ
ミヅヒオナガ	6.3.	彦原

シロキョウ科

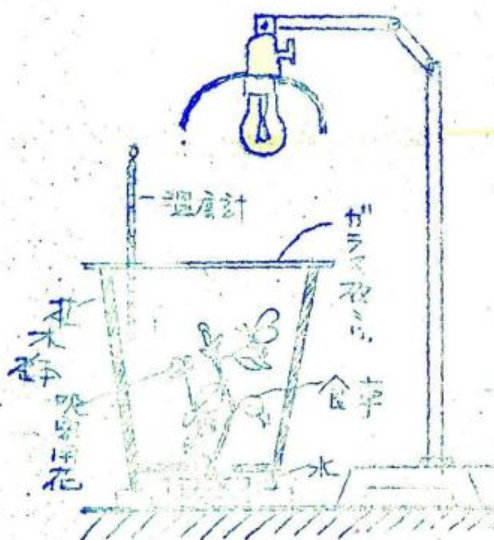
モンシロ	2.20	守米
スズグロ	3.4.	彦原
ツマグロキ	2.22	守米
キキョウ	.....	シ
ツマキキョウ	3.16	シ
モンキキョウ	3.15	シ



# 僕らの成功失敗

## リシヤール式蝶の採卵

### リシヤール式採卵法



野外で採卵をするときは、必ずしも野外で採卵をする必要はない。むしろ、室内で採卵をする方が、成功率は高い。リシヤール氏は、この方法を考案した。その方法は、ガラス瓶の中に、水を入れたらいい。そして、その瓶の中に、温度計を入れる。そして、その瓶の中に、木枠を立て、その木枠の上に、咲き花を置く。そして、その木枠の下に、水を入れる。そして、その木枠の上で、蝶を採卵させる。この方法で採卵すると、成功率は非常に高い。リシヤール氏は、この方法を考案した。その方法は、ガラス瓶の中に、水を入れたらいい。そして、その瓶の中に、温度計を入れる。そして、その瓶の中に、木枠を立て、その木枠の上に、咲き花を置く。そして、その木枠の下に、水を入れる。そして、その木枠の上で、蝶を採卵させる。この方法で採卵すると、成功率は非常に高い。

リシヤール氏は、この方法を考案した。その方法は、ガラス瓶の中に、水を入れたらいい。そして、その瓶の中に、温度計を入れる。そして、その瓶の中に、木枠を立て、その木枠の上に、咲き花を置く。そして、その木枠の下に、水を入れる。そして、その木枠の上で、蝶を採卵させる。この方法で採卵すると、成功率は非常に高い。リシヤール氏は、この方法を考案した。その方法は、ガラス瓶の中に、水を入れたらいい。そして、その瓶の中に、温度計を入れる。そして、その瓶の中に、木枠を立て、その木枠の上に、咲き花を置く。そして、その木枠の下に、水を入れる。そして、その木枠の上で、蝶を採卵させる。この方法で採卵すると、成功率は非常に高い。

### 1 ツマグロヒヨウモン

(宇尾景吉)

第一回で直徑2.0cmの針を使用した。これは、採卵の際に使用する。そして、その針を使って、蝶の卵を採る。そして、その卵をガラス瓶の中に、水を入れたらいい。そして、その瓶の中に、温度計を入れる。そして、その瓶の中に、木枠を立て、その木枠の上に、咲き花を置く。そして、その木枠の下に、水を入れる。そして、その木枠の上で、蝶を採卵させる。この方法で採卵すると、成功率は非常に高い。リシヤール氏は、この方法を考案した。その方法は、ガラス瓶の中に、水を入れたらいい。そして、その瓶の中に、温度計を入れる。そして、その瓶の中に、木枠を立て、その木枠の上に、咲き花を置く。そして、その木枠の下に、水を入れる。そして、その木枠の上で、蝶を採卵させる。この方法で採卵すると、成功率は非常に高い。

たほみだした温度が24℃にさるとおぼれまわりの外に出して休め  
いたた吹卓燈したこうして3時間にしらべたとこも372倍ほんと  
た聖日下移後148コとろり聖日には212コとろりもうほみえうも  
ながつたの2巡がしこやつた産んだ場所はスミシの表面と他の  
ハチにまでほみつけられたこの割合を強見したら面白いと  
ヒヨラモニ類の固牢ぞす

2 キタチハ

(仲尾貴樹)

4種は2回して2回と成りつたか一回は電燈を合点はイラクサを  
用いたニの時日温度計がつかないのはじめた一他由んだときがラスを  
いびが卓燈してくらふりみいたでぎせがしこしまつたや二回ほみえうも  
にしたまふりみいたでぎせがしこしまつたや二回ほみえうも  
集した子とすくはれに銀ぐてみたときも3葉のり面にほみえうも  
30月の草はカサのりを役用した経験は全評にほみえうも  
の時草はカサのりを役用した経験は全評にほみえうも

3 ミカドアザハ

(伊和知寛)

5日初め安樂の製本林中でオガタマノキノ同リを種殖の思オドを  
とつたところには夕テハチヨウの採行の際の註ど吹敗したのほみえうも  
みる赤に夕テハチヨウの採行の際の註ど吹敗したのほみえうも  
au, 積60cm厚行は30cmの積のあだけの本節でほみえうも  
ほづした箱中ほみえうもほみえうもほみえうもほみえうも  
一日月の夜燈のほみえうもほみえうもほみえうもほみえうも  
締にすわしたほみえうもほみえうもほみえうもほみえうも  
た次の日3時ほみえうもほみえうもほみえうもほみえうも  
てやつたところほみえうもほみえうもほみえうもほみえうも  
見こいたとほみえうもほみえうもほみえうもほみえうも  
初がしをがらほみえうもほみえうもほみえうもほみえうも  
こあと同様にほみえうもほみえうもほみえうもほみえうも  
こしきつたほみえうもほみえうもほみえうもほみえうも  
飛ひをがらほみえうもほみえうもほみえうもほみえうも  
かと更ふ先ほみえうもほみえうもほみえうもほみえうも  
うがよいと更ふ先ほみえうもほみえうもほみえうもほみえうも

3. アシガキチヨウ

(新川勉)

倉草イヌビワ武冬早を便用金鉢經200mmの春名さど太陽光線の  
弱くさいとこであつたかで電燈を便用しようがつたこの時期は  
光線の便用もよい方派のほうで私口春名はほみえうも  
ありまがとほみえうもほみえうもほみえうもほみえうも  
らどうかとほみえうもほみえうもほみえうもほみえうも

4. ゴツギ

(新川勉)

大詠詞集のほみえうもほみえうもほみえうもほみえうも  
大詠詞集のほみえうもほみえうもほみえうもほみえうも  
キをーほみえうもほみえうもほみえうもほみえうも  
係はほみえうもほみえうもほみえうもほみえうも

# 5 イシガキ

(福田暗夫)

3月30日 夏井で1号を採り、三角紙に入れて3時を30分後に持ち帰  
 吸窓、再び三角紙に包んでその夜を明け、翌日10時を30分の装置  
 に移す。外はだして来たが雲が多く、30℃後に言ったとき、ちよつと尾を曲げたが  
 2日、4月2日、午後5時実燈(100V 60W)をし、25℃以上には下上らず、  
 4月3日、朝1時間実燈(失敗)次にさん側にぞち、日光は直射である。  
 1時を30分を待たせて、ココでは産につけられていた、そこからずつと見ていた。  
 コロコロ吸窓した。産は、はじめ、尾を曲げてイヌビワに登り安定したと  
 ころを見つけた。尾端を葉におくれおくれに近づけ(12~30秒)で静かに産を  
 つけた。野外に比してやや長い、1時間おつたうちには9個産んだが、1  
 コは産してしめた、チブーをけ成功、とこ3コこの一では、又方逃  
 がしてしめたので、先日、自宅を採り一週間後ボール箱に入れていたものを  
 使用することにした。(もつちん吸窓はさせない) 夏井は大破して、恐らく下でわらう  
 と思っていたが、意外にも産んだ、(50コ位) 葉のものを合わせて、80コ位に育った。  
 まだツブけたかつたのだが、サツマシジミと交えた。これよりみて、日光をや  
 ったもので、実燈では、温度が上がりすぎる、チブーをクーファンして駄目だった。日  
 光では温度が30℃以上に育るときこぼす。ガラスにカゲを作つて調節した。鉢の径  
 は20cm 高さ20cm 窓は、ゴドラ糖(めんぷん糖)をワタに包んだものをサカケ  
 キに入れた。

# 6 サツマシジミ

もつちん失敗したことは当然であるので簡単にしこします。食草の代用品はマナキノミとしてやりましたが  
 約3日間生きていたが、腹部がふくらんでしまったので切腹ししたところ多数の卵をまつてい  
 ました。未成熟だったのでもつちんについで、形はルリシジミと似て重なりあつたようです。(新川 勉)

4月4日 夏井で採ったものを使用しよう置はイシガキと同じく失敗は覚悟のあと、全く見てもつてい  
 (3時) 食草もドモロヘニ、バクミ、ミミコなど有名な名種の植物を少しづつ入れた。吸窓はさぐりにするがただ  
 ころを腹を分けてじつとしている。産下におくと産むやうだが、日光にあつたところ水漬が多数なまるのど  
 ガラスをうら返えうとしたところ逃げられしやつた、すぐネットを手にして逃げたが、例へてく上へ上へ上へ  
 してしつ下、つたがりたんしていたところこの皿にいろは隠れ子かつた本種は1号を採ること2日  
 の夜採りにつくとこ3、これは何のものを全く同じにまたもや逃げしやつた、これだけ私の体験は、  
 常に準備がすりということであらう、いくらじつと止まっていると思つてもすぐ逃げたり、また、  
 産野で産んだ、産を付けてから育つてきた。以上で之にて。(福田 暗夫)

# 7 ミカドアハ

(新川 勉)

産の飼育のつて3個ほど採りました。人をさわがしいところには、日中でやはり静かるとこ3に分けたと  
 思つた。既定の方のが、この種は野外で採つた方がは3分に多くとれます。

これらのことは、早野代産のものが入つたはじめて、産がほとんど、成功率も高かつた。ナガ  
 れとも、ガラスなども大層に成のしている。何れにしても、自分で工夫することだ。











甲 虫  
(3)  
3年  
新川 勉

今日の形式を変えて、非常に種類の多い甲虫類の目録を少しづつ完成したいと思ひます、内容は大部分は黒澤良彦氏にあねがひしました。

**タマムシ科**

- タマムシ
- タマムシ
- サツバハバタムシ
- クロタマムシ

**コガネムシ科**

- オゾムシ
- オゾムシ
- ミドリハナムグリ
- アキコナブン
- クロコナブン

- オオコノコガネ
- コノコガネ
- カナブン
- ハナムグリ
- スギコガネ

**コナツキムシ科**

- ウバタマモドキ
- 子ノトウムシ科
- オオテントウ
- テントウムシ
- ナナホシテントウムシ

以下は黒澤氏の同意には

- メナギハムシ (ハムシ科)
- コモンシジミガムシ (ガムシ科)
- ヒメクロオトシガムシ (ガムシ科)
- オオクキムシ (クキムシ科)
- マルシジミガムシ (シジミガムシ科)
- シジミガムシ (シジミガムシ科)

**カミキリムシ科**

- クロカミキリ
- トザリミロオビカミキリ
- アサカシカミキリ
- ナガコマカミキリ
- クワカミキリ
- ゴマダラカミキリ
- ノコギリカミキリ
- ベニカミキリ
- ミロスズカミキリ
- メナズカミキリ
- ホリアシトラカミキリ

**シデムシ科**

- クロシデムシ

**ケシキスイ科**

- ヨツボシケシキスイ

**ヲサムシ科**

- オオヨツボシサムシ
- オオアトホシサムシ
- セアカサムシ

**ゾウムシ科**

- オオゾウムシ

**マイマイカブリ科**

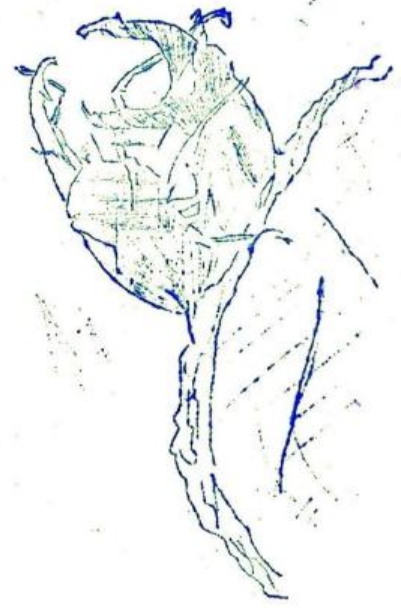
- ヒメマイマイカブリ

**ハニメウ科**

- ハニメウ
- ニロハニメウ
- コニメウ

- ダイコニサルハムシ (ハムシ科)
- ヒメアカボシテントウ (テントウ科)
- クロイトクナクシ (クナクシ科)
- ヤマトツクハシゴムシ (ゴムシ科)
- ヨツボシゴムシ (ゴムシ科)
- アキマグリコガネ (コガネ科)
- ベニムシテントウ (テントウ科)
- ニシゴムシダマシ (ゴムシ科)
- マツヒラホシゴムシ (ゴムシ科)
- ハムシダマシ (ハムシ科)
- ナガゴムシ (ゴムシ科)
- ウスケツクムシ (ツクムシ科)

以上 順不同  
少しづつでも完全にしたいと思ふ



# 板 州 蝶

## ○ 今年の蝶の新記録地

オナガアゲハ	大野	4 2	赤坂近所守崇 (各地に発見)
ウラギンスギヒヨウモン	福田	5 28日	赤坂近所守崇 (各地に多し)
オオウラギンスギヒヨウモン	新川	6 月24日	霧島山
キニグチヨウ	野和太町	6 月24日	霧島山
シルビアシジミ	福田	3 月22日	宇米
トラフシジミ	新川伊地知	6 月24日	霧島
ミドリシジミ	大野	6 月24日	霧島
ホソバセセリ	福田	7 月17日	蓮原
ヒナキマダラセセリ	大野	6 月24日	霧系
ヒオドシキョウ	野和	6 月24日	霧島

## ○ 赤坂近所地方のシルビアシジミ

1951年6月22日 午後3時30分、山麓神社下の田んぼにおいて1匹をとり、その後再び1匹をとつた。これは、鹿児島県における最初の記録とのことである。その後8月6日、蓮原において、1匹を捉えた。これで、本種は各地に産するものと思われ、尚、標本は、皆無である所存している。(福田)

## ○ ミツイロオナガシジミ多産地

本誌NO.2に少しのべておいたが、多産地として確認したので書き記す。6月3日 赤と同じ場所、蓮原、クヌギ林において、多数目撃し、6頭をとりえた。白水発生にみまもらせられたところ、午後4時九州では全く記録が無く、南端にこそ多産することは、非常に面白いことである、とのことである。各地に添りとうに思われる。(福田)

## ○ トノボ雑記

本誌15年より、トノボトノボ→トノボ朝比奈正二評先生に因るおかげで、普通種であるが、本誌まで来る。

(ウツトノボ科) ハグロトノボ(♀) 1951.V.14. 恐らく日本の出現期の最も早いもの 宇米  
アヲハダトノボ 宇米 山口本郡長門郡の記録でしょう。

### (ウツトノボ科)

キイロサナエ(♀) 宇米 2.V.51 上層が眞黒子と混目に似る、本邦最南端記録。  
ヤマサナエ(♀) 宇米 14.V.51 最南端記録種。  
オグササナエ(♀) 宇米 1.V.51. " " " "

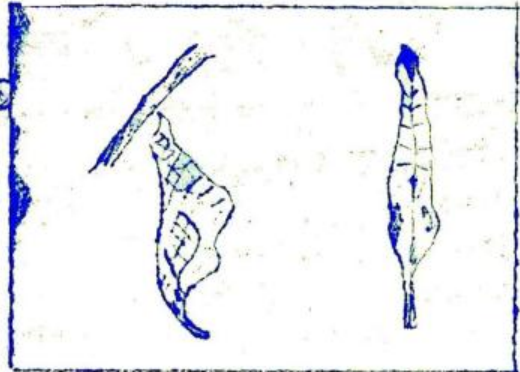
(トノボ科) コヤマトノボ(♀) 大野 12.V.51. 南端記録。  
ミヤマトノボ 宇米 19.V.51. " " " "

新川地

# ムシ.スケッチ



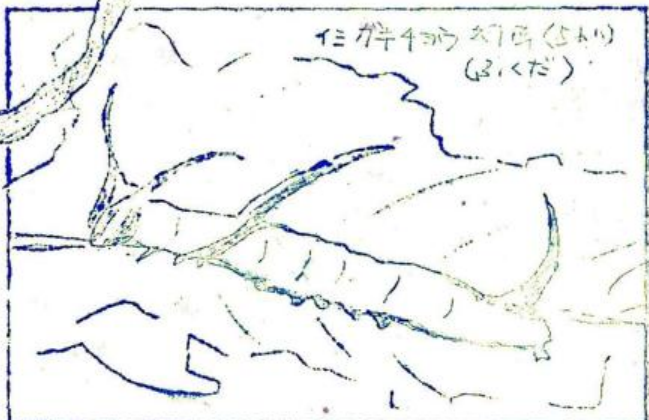
オオムシ (20)



イモキキウウ (3.4E)



オオムシ (20)



イモキキウウ (3.4E)

## ムシ.スケッチ (16Pより)

- ツマグロヒヨウモリ (上中下)
- ヒオドリクヒヨウ (上中下)
- ルリタテハ (上中下)
- キタテハ (上中下)
- コムスデ (上中下)
- イモキキウウ (上中下)
- スモナガシ (上中下)
- シジミクウウ (上中下)
- ミドリシジミ (上中下)
- トランプシジミ (上中下)
- ムラサキシジミ (上中下)
- ムラサキツツシジミ (上中下)
- ムラサキヒメ (上中下)
- ハニシ (上中下)
- ツバキ (上中下)
- ルミシ (上中下)
- ヤマト (上中下)
- カヤマ (上中下)
- ヒメシジミ (上中下)
- イモキキウウ (上中下)

- オオムシ (下)
- キマダラヒメ (下)
- ヒメキマダラヒメ (下)
- (シマノ) (下)
- ヒメキマダラヒメ (下)
- クロヒメ (下)
- キマダラヒメ (下)

オオムシ (20)

ムシ.スケッチ  
 18  
 子島にてツバキ



志友志麻校 生物研究会会報 モンシロウヨウ

No. 3

1951年 8月11日 発行、発行責任者、久木崎重夫

編集者、新川勉、印刷者、福田晴夫、栗丸美樹